

産業振興について



若杉 泰彦

市の先進的指導

問 各企業の事業内容をよく理解し、地域的・先進的指導を積極的に進める機会を設定して欲しいという要望に対して市はどう考えるのか

答 人材面の取り組みとして国や県と連携しながら小笠地区、島田地区の雇用対策協議会の中で就職フェアや学校との情報交換会や職場見学会を実施しています。また、県と富士山静岡空港周辺15市町で基本計画策定のための研究会を立ち上げましたので、今後は本制度を活用し県内外に情報発信します。

御前崎港

問 御前崎港の利用促進活動で市内企業の利用状況とそのニーズにどの程度応えているか

答 地元企業を始め本県中

西部地域の企業、商工会を個別に訪問し、御前崎港のPRと利用の検討をお願いすると共に、今後のポートセールス活動を生かすため、輸出入貨物の状況や御前崎港に対する要望、意見などを伺っています。コンテナ航路については4航路がありますが、市内企業でコンテナを利用して外国貿易を行っているところは少数ですが、各種要望に応えられるように活動してまいります。

人材確保

問 多様化する就業構造に対応した市内就業者の確保と雇用の場を形成する施策は

答 企業訪問時に雇用者の確保についてよく聞かれますが、雇用対策につきましても非常に難しい問題であり企業、商工会、市、それぞれの立場で役割を明確にし取り組んでいく必要があると考えます。今後も電源立地の優位性と空港、港を生かした新たな就業場の確保を目指して企業誘致を進めます。

問 御前崎港の見学会とセミナーは年に1度つづつですが、回数を増やしてPRの機会をもっと増やせないか

答 企業の皆さんや県の指導を頂きながらいつまでも清水港の子会社ではなく天下に、世界に誇る御前崎港になるように努力

問 人材不足の対応は

答 いろいろな人材について厳しい状況があり、関連の友好都市にも相談して御前崎市で働いていただくような環境づくりに努力してまいります。

御前崎市の地域産業振興の今後の取り組みについて

・ 荒廃農地対策と地域産業振興
・ 観光と地域産業振興



後藤 憲志

問 「ふるさとを荒らさない」を合い言葉に荒廃農地再成対策事業を新規に立ち上げ、関係団体や関係各課連携の下、現在各事業に取り組み、その成果が期待されており、また多くの課題も提起され

答 荒廃農地は、採算が取れないからという理由が発生原因であることから、その解決策は大変困難な課題であります。何らかの措置を講じなければ、その状況はますます悪化してまいります。そのため、いち早く今年度予算化をし、多方面から取り組みむことにより、その糸口を模索しております。今年度実施しております様々な事業につきましては、年度内に可能な検証

を行い、農業委員会を中心に仮称「荒廃農地対策協議会」を発足させ、補助要綱を整備しながら、生産・加工・販売を担う民間組織が自立していきけるよう、採算が取れるシステムを模索していきたいと考えております。本事業は1年で結論が出せる事業ではありません。数年を目標に道筋をつけたいと考え、今後も荒廃農地対策事業を継続してまいります。

問 「御前崎市観光戦略基礎調査報告書」を基に御前崎市の観光の方向性、観光振興策のプランづくり等への取り組みによる市としての新しい観光振興策については

答 新たな観光施策を展開するためには、観光資源の充実や宿泊客への魅力の向上、生活環境の向上、農業・漁業経験者を活かした地域の持続的発展につながる観光、広域型観光を視野に入れながら、取り組んでいく考え方で進めています。具体例として「クエ」活用実行委員会を組織し協議・検討を重ねる中で、市内料理飲食・宿泊関係者10店の施設からなる「御前崎クエ料理組合」を立ち上げ、市の新たな商品開発並びに誘客事業として情報発信をしている所です。マリンパークのオートキャンプ場についても、夏季限定での試行運営の実施結果73組、95泊延べ人数で400名が利用。マリンスポーツスクールで延べ人数1,500名の利用があり、今後、運営上の課題を整理して旅行商品企画として検討してまいります。